

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、学び続ける力を培い、他者理解と協同の心をもって社会に参加・貢献できる人を育む学校

1. 生徒の自立と自律を支援する：様々な背景を理解して寄り添う生徒指導により、基本的な生活習慣と高い規範意識を醸成する。
2. 「確かな学力」を育む：「基礎学力の充実」と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善に取り組む。
3. 中途退学の防止：中学校や外部人材・機関との連携を深めて教育相談体制を充実させるとともに、キャリア教育を推進する。
4. 自他を大切にすることを育む：教職員・生徒相互のコミュニケーションを通して、自己肯定感を高めるとともに、違いを認め他者を尊重する気持ちを育む。
5. 「明るく開かれた学校」：家庭・地域との連携を深め、教育力の強化、地域社会への貢献、安全安心な環境づくりに取り組む。

2 中期的目標

1 変化する社会に対応し学び続ける力を生徒に育むよう、教職員が研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。

(1) 質の高い理解を図るための習得・探求・活用の学習過程をすべての授業で実現できるよう、小グループでの学習、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT機器の積極活用などを推進する。

ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒が主体的に学び合う授業改善に取り組む。

イ 少人数展開授業、チームティーチング、個別の支援等を通して、きめ細かい指導を充実させ、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。

※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」(平成 30 年度 75.1%)を、2021 年度には 80%以上をめざす。

2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する。

(1) 基本的な生活習慣を確立し、学校生活を大切にすることを育む。

ア 日常のきめ細かい指導・対話と家庭連絡を通して基本的な生活習慣を確立し、欠席・遅刻を防止する。

※生活習慣の改善と中退防止の観点から、欠席・遅刻者数を 3 年間毎年、前年度以下とする。

イ 生徒指導上の課題に対しては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うよう、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。

(2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい指導と支援を通して、不登校や中途退学を防止する。

ア 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、生徒が抱える課題を教職員が共有し、教育相談体制を充実させるとともに、不登校や中途退学の防止に注力する。

イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、必要に応じて「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度(平成 30 年度 73.8%)を、2021 年度には 78%以上をめざす。

※中退率・生徒指導事案数を 3 年間毎年、前年度以下とする。

(3) 自己肯定感と人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。

ア HR や総合的な学習・探求の時間、学年行事等で仲間づくり・他者理解を深める取組みを計画的に実施する。

イ 学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制を全教職員で堅持するとともに、人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」(平成 30 年度 67.3%)を、2021 年度には 72%以上をめざす。

(4) 教職員の働き方改革を進め健康管理に努めるとともに、ハラスメントの防止、危機管理体制の充実に努め、安全・安心な教育環境づくりを進める。

ア 教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、学年・分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。

イ 生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。

3 生徒が将来の展望を描き、自己実現に向けた取組みに打ち込むことができる支援・指導体制を充実させる。

(1) すべての教育活動を通して、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。

ア 入学時より 3 年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進する。

イ 授業、学校行事・HR 活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「常に変化する社会の中で自立することができる人を育てる」という観点から組み立てる。

※卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率(H30 年度末 3%)を、今後 3 年間 5%以下を維持する。また、学校紹介就職希望者の割合(H30 年度末 66%)を、今後 3 年間 66%以上を維持する。

4 勝山高校と新校が共に円滑な学校運営を行っていくことができるよう、教職員の力を集めて工夫・改善を進めていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒・保護者とも、ほとんどの項目で肯定的な回答が昨年度を上回った。教職員の日頃からの情報共有、指導における共通認識を深めながら保護者の協力のもと連携をはかりながら、学校運営協議会からの意見も参考に、きめ細かく丁寧な指導を粘り強く続けてきている成果だと思われる。</p> <p>【学習指導等】 生徒では、「積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」が 8.3 ㊦ ㊦ 増。「授業はわかりやすく内容に満足」が 4.1 ㊦ ㊦ 増。「学習で自分が努力したことを認めてくれる」が 4.4 ㊦ ㊦ 増。「学習の評価に納得できる」が 3.9 ㊦ ㊦ 増。保護者では、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」が 11.6 ㊦ ㊦ 増。「子どもの評価を適切・公平に行っている」が 9.1 ㊦ ㊦ 増。</p> <p>【生徒指導等】 生徒では、「担任以外の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談できる」が 8.8 ㊦ ㊦ 増。「学校生活についての先生の指導は納得できる」が 6.6 ㊦ ㊦ 増。保護者では、「学校の生活指導の方針に共感できる」が 14.7 ㊦ ㊦ 増。「先生は子どもを理解している」が 8.5 ㊦ ㊦ 増。</p> <p>【進路指導等】 生徒では、「将来の進路や生き方について考える機会がある」が 3 ㊦ ㊦ 増。保護者では、「学校は将来</p>	<p>【第 1 回 6 月 19 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山高校の生徒は変化してきている。生徒の実態把握をよくして何をすればよいのかを考えてほしい。先生方の努力の結果は生徒の姿に現れる。 ・自転車のマナーについて講習やスマホや校則について生徒たち自身で考えさせる場はあるのか。(交通安全講習、スマホのマナー講習、校長と生徒自治会役員の意見交換など行った。) ・先生方は自信をもってやってほしい。生徒のやる気スイッチを押すには先生力が必要。丁寧に教えてほしい。学びから逃避する生徒をなくすには学校体制でどうするか。 ・生徒のやる気を引き出し主体的にさせる。中学校では学びの共同体による成果が上がっている。先生も生徒も楽しみながら学ぶ工夫が必要。 <p>【第 2 回 11 月 22 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞の内容について考えてはどうか。企業の人と会話できる機会を設けるのは良いのではないかと(企業の方を招いての進路学習は毎年行っている。) ・遅刻については、朝起こすエネルギーはかなり必要になる。生徒が頑張れるモチベーションを上げることが大切。文化祭は活気がありよかった。キャリア教育は単発でなく継続してつなげるように。

府立勝山高等学校

<p>の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が 10.7 ポイント増。</p> <p>全体的に保護者からの肯定的な回答が昨年度より大きく上回った。「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」が 6.5 ポイント増。「学校は子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」10.6 ポイント増。「学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」11.4 ポイント増。「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」11 ポイント増。「PTA 活動や学校行事には参加しやすい」14.3 ポイント増。</p>	<p>【第 3 回 3 月 4 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」が 8.3 ポイントも上がっているのは、先生方の授業での頑張りが見られている。日々の取り組みが着実に実を結んでいると思われる。 先生方は大変良く活動されているが、細かなことにとらわれず学校としての理念を教員全員が共有・理解し、それを判断基準として各教員が自主的に動けるようになることをめざしてほしい。 学校体制で再度「学びの共同体」をすすめてみてはどうか。 教員アンケートで否定的な回答が多い項目があるが、それは学校をより良くしたい意識の表れであろう。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 研修を重ね「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する</p>	<p>(1) 安心して学べる環境づくりと、質の高い理解を図る学習過程をすべての授業で実現できるよう、小グループでの学習、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT 機器の積極的な活用などを推進する。</p> <p>ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒同士が主体的に学び合う授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業規律を堅持し、安心して学びに向かうことができる授業環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 年次は授業規律の確立に注力しつつ、小グループでの学習や体験活動も積極的に取り入れる。年次進行と実態に合わせ、習得・探求・活用を通して質の高い理解に繋がる学習過程を重視した授業づくりを押し進める。 授業研究ユニットを編成し、授業見学、公開授業、研究協議等を実施し、成果を共有する。 すべての授業を公開し、相互に学び合い、生徒の学びの状況を見取ることができる力をつける。 ICT 機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりを推進する。 公開授業、研究協議を開催し、地域の中学校教員や学校運営協議会委員等に授業を公開し、学校への理解を深めてもらうとともに授業改善に活かす。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」を前年度以上。(H30 年度 59.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」を前年度以上 (H30 年度 72.8%) ユニット研修を年間 3 回以上実施する。 生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持っている」77%をめざす。(H30 年度 75.1%) 生徒向け学校教育自己診断「他の先生が授業を見学に来ることがある」80%以上を維持 (H30 年度 83.4%) 生徒向け学校教育自己診断「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」を前年度以上。(H30 年度 72.3%) 	<p>(1)</p> <p>ア・「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」67.4% (+8.3) と安心して学べる環境づくりがすすんだ。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教え方に工夫をしている」75.3% (+2.5) 生徒の実態に合わせた授業づくりがすすんだ。(○) ユニット研修は実施せずに授業見学週間を設定した。(△) 「授業内容に興味・関心を持てる」77.4% (○) 「他の先生が授業を見学に来ることがある」80.1% (○) 「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」79.1% (○)
<p>2 手元の教員向け研修を通して生徒の学習意欲を高め、安全・安心な学校生活を実現する</p>	<p>(1) 基本的生活習慣を確立し、学校生活を大切にす態度を育む。</p> <p>ア 基本的生活習慣を確立する。</p> <p>(2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい指導と支援を通して、不登校や中途退学を防止する。</p> <p>ア 中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を共有し、教育相談体制を充実させる。</p> <p>イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、支援する。</p> <p>(3) 自己肯定感と人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。</p> <p>(4) 教職員の働き方改革を進め健康管理に努めるとともに、ハラスメントの防止、危機管理体制の充実に努める。</p> <p>ア 業務の効率化、分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因や背景を探り、対話による丁寧な指導、家庭との連携、必要な支援を通じて、相互信頼を深め、遅刻・欠席を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。 <p>(2)</p> <p>ア・高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、教育相談体制を充実させ、不登校や中途退学を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年団で情報共有と意思統一を図り、協力して生徒支援に臨めるよう、学年会を月に 2 回以上開催する。 <p>イ・様々な背景を理解し、必要に応じ「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいや配慮を要する生徒の支援に対する教職員の理解を深める資質向上に取り組む。 <p>(3)</p> <p>イ・学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制を全教職員で堅持するとともに、人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り組む。</p> <p>(4)</p> <p>ア・教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、学年・分掌間連携等を進め、長時間勤務を縮減する。</p> <p>イ・生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・欠席者数、遅刻者数を昨年度以下とすることをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度 67%以上をめざす (H30 年度 64.6%) 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 63%をめざす (H30 年度 64.6%) <p>(2)</p> <p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度 75% (H30 年度 73.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会議を月 2 回以上開催し生徒支援のための情報共有を緊密にする。 中退率を前年度以下とする。 <p>イ・外部人材と連携した生徒支援に係るケース会議等を毎月開催する。</p> <p>(3)</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」69%をめざす (H30 年度 67.3%)</p> <p>(4)</p> <p>ア・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止、人権尊重の姿勢にもとづいた生活指導が行われている」、「教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談し合える職場の人間関係ができてい」70%をめざす (H30 年度 67.9%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・欠席率は昨年度 25.5%であったが、今年度は 22.3%。特に 1 年生の欠席率が昨年度より 12.5%減少した。遅刻率は昨年度とほぼ変化なし。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導充実度は、68.6% (○) 入学満足度は、70.3% (◎) <p>(2)</p> <p>ア・教育相談満足度 76.4% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会議は、1 年は月 3・4 回、2 年は月 2・3 回、3 年は月 2 回開催し、生徒支援のための情報共有を行った。(◎) 年度途中の中退率は、昨年度は 6.6%であったが今年度は 6.2%であった。(○) イ・外部人材と連携したケース会議は 2 月に 1 回程度、週 1 回の支援会議で情報を共有し教職員の理解を深めた。(○) <p>(3)</p> <p>イ・「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」72.5% (◎)</p> <p>(4)</p> <p>ア・月平均時間外労働時間は、2 時間 42 分減。月 80 時間超勤務者数は 8 人減。(○)</p> <p>イ・「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止、人権尊重の姿勢にもとづいた生活指導が行われている」71.7%、「教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談し合える職場の人間関係ができてい」76.1% (◎)</p>
<p>3 生徒が自己実現に打ち込むことができる支援</p>	<p>(1) すべての教育活動を通して、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。</p> <p>ア 入学時より 3 年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・進路指導部と各学年が密接に連携し、職業観、勤労観、自己肯定感を養う学習プログラム、体験学習等を充実させ、3 年間で系統立てたキャリア教育を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、企業見学、オープンキャンパス等への参加、講習や資格試験の受験など奨励・推進する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度 70%以上を維持する (H30 年度 73.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率を 5%以下とする。(H30 年度末 3%) 職業観育成プログラム参加者 30 名以上を維持する。(H30 年度 35 名) 	<p>(1)</p> <p>ア・各学年における進路学習に工夫を行い、進路学習及び進路情報に対する満足度 75.9% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定率 1% (◎) 職業観育成プログラム参加者は 9 名であった。(△)

府立勝山高等学校

<p>4 勝山高校と新校の円滑な運営に資する工夫・改善に努</p>	<p>(1) 勝山高校と新校がともに教育活動を展開する2年間の学校運営体制の制度設計を十分検討し、作成する。</p>	<p>(1) ア・教職員間の情報共有と連携を綿密に行いつつ、プロジェクトチームおよびワーキンググループを中心に制度設計を進める。</p>	<p>(1) ア・工程表通りに制度設計を進捗させる。 ・2020年度および21年度の学校行事が、生徒及び教職員にとって最善なものとなるよう、検討を進める。</p>	<p>(1) ア・大きくシステムが変わる新校準備を勝山高校の教育活動を行いながら進めることには大変な苦勞があったが教職員の並大抵ではない努力でほぼ工程表通りにすすめることができた。(○) ・今後も検討を進め続ける。</p>
-----------------------------------	--	--	---	---